

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2010.12 vol.57

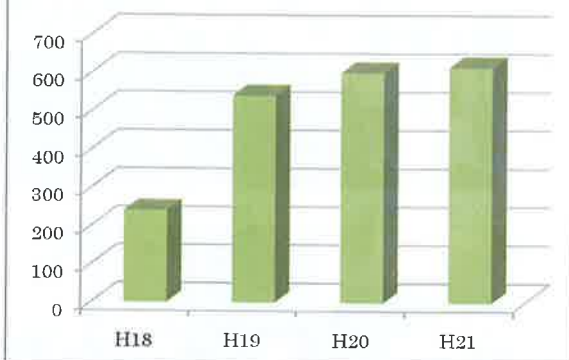
消化器内科の紹介

平成18年4月から、鹿児島医療センターと当院の名称が変更になると同時に消化器内科スタッフも一新となり、鹿児島大学消化器疾患、生活習慣病学（第二内科）からの人事で、4名の消化器内科スタッフで診療を行っています。外来診療は、月、水、金曜日は藤島が担当し、火、木曜日は坪内が担当しています。腹部エコー、上部内視鏡、下部内視鏡検査は毎日行っており、内視鏡検査は検査件数も増加しています。入院患者数も平成18年以降増加傾向です。

消化器内科

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
上部消化管内視鏡検査	966	1,012	1,190	1,228
下部消化管内視鏡検査	312	370	432	416
小腸内視鏡	30	30	30	34
消化管透視	58	57	78	52
腹部エコー	794	839	872	983

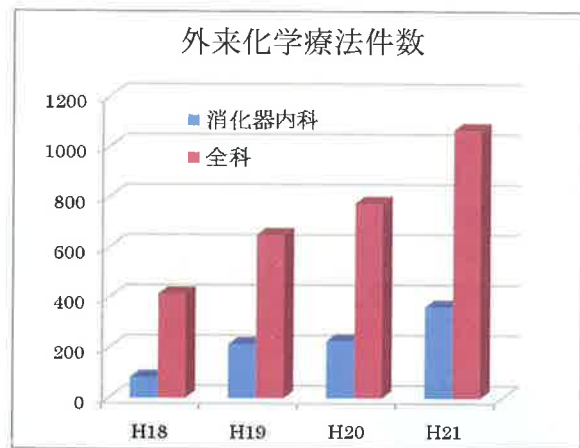
消化器内科入院件数



藤島の専門分野は、消化器がん化学療法であり、胃癌、大腸癌、食道癌などの化学療法の患者さんが増えています。特に大腸癌は、抗VEGF抗体(アバスチン)や抗EGF受容体抗体(アービタックス、ベクティピックス)などの分子標的治療薬の治療も適応のある患者さんには施行しており、大腸がんの化学療法目的の入院患者さんが増えました。胃癌は、TS-1カプセルの内服治療や外来で点滴できる抗がん剤が多いため、入院での治療より、外来治療が主体となっています。

当院は外来化学療法室に7ベットを有しており、がん化学療法認定看護師(徳永)、がん薬物療法専門医(藤島)も配置しています。外来化学療法の患者さんはグラフのように急増しています。

外来化学療法件数



当院は放射線治療装置も有しており、食道癌の放射線化学療法目的の患者さんも増えています。消化器がん治療のセカンドオピニオン外来も予約制で対応しています。セカンドオピニオン外来希望の場合は、地域連携室経由で予約をお願いします。

坪内は、消化器一般診療に加え、県内では実施可能な施設が少ないダブルバルーン小腸内視鏡検査も積極的に行っており、小腸病変の診断と治療をおこなっています。平成21年秋に小腸カプセル内視鏡システムを導入しましたので、鹿児島県では数少ない小腸内視鏡と小腸カプセル内視鏡の両方のシステムを持つ病院となりました。原因不明の消化管出血(小腸出血)の症例に対して、タイミングを逃さずに小腸カプセル内視鏡での検査で出血部位を同定し、経口的あるいは経肛門的にダブルバルーン小腸内視鏡を用いて止血処置を施すことが可能になりました。小腸検査の必要のある患者さんがおられましたらぜひご紹介ください。

鹿児島医療センター(循環器・がん専門施設)において、当科の主な役割としては、がん系診療科として消化器がんの検査、化学療法(抗がん剤治療)を適切におこなうこと、および院内および院外からの消化器症状を訴える患者さんの診療(検査、治療)をおこなうことと考えています。

消化器疾患の患者さんに対して、良質な医療を提供できるように、今後も日々努力していきたいと思っております。
(文責 藤島 弘光)

おはら祭に参加して

私たちは11月3日に2年生129名、1年生34名、計163名で「おはら祭」に参加させていただきました。おはら祭への参加は看護学校で毎年受け継がれている行事です。去年はインフルエンザの流行により参加することができませんでした。今年は去年の分まで精一杯踊り、見ている人も踊りたくなるような踊りができるように一生懸命練習に励みました。

練習を始めたばかりの頃は「おはら祭」がどのような踊りなのかさえわからない状況でした。そこで、鹿児島市が開催している振り付け講習会に2年生全員で参加し、おはら音頭、ハンヤ節、渋谷音頭の3曲の振り付け全てを覚えることができました。また、指導してくださった方々のおはら音頭を見せていただき、おはら祭への熱い思いが伝わり、日々おはら祭への思いが高まり練習への意欲がみられるようになりました。学校での練習ではみんなで声を出したり、振り付けを教え合ったりと、団結力ができしました。今年、最後の行事ということもあり、「みんなで楽しもう」、「当日、声出して盛り上げよう」などといった発言も多く聞かれるように

なり、当日は気持ちが1つになりました。

今回、私はおはら祭のリーダーをさせていただきました。正直、始めの頃は163名をまとめるためにどうすればいいかわからず、悩んだりしました。しかし、困っているとき、多くの友達に助けってもらったり、先生方から助言していただきおはら祭を成功させることができました。おはら祭が終わりたくさんの方々から「おはら祭楽しかった」などの言葉を聞き、おはら祭のリーダーを経験できてよかったと感じました。

おはら祭のリーダーという経験を通して、大人数をまとめ1つのことをやり遂げる難しさやサブリーダーとの連携の大切さを学ぶことができました。来年は各論実習が始まり、学生や臨床の方々との情報の共有や、報告、連絡が重要になってきます。今回の経験を活かし、学生の連携を深めよりよい看護を患者様に提供できるように頑張っていきたいと思います。

鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校2年
松崎 杏梨

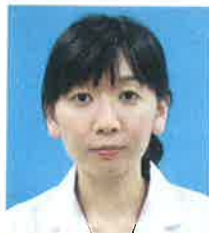


新任紹介



放射線科 谷 淳至
たに あつし

平成22年10月より、当院放射線科に勤務しております。当院には初めての赴任であり、当初は戸惑うことも少々ありましたが、ようやく業務をスムーズにこなすことができるようになってきました。CT及びMRI・核医学検査などの画像診断を中心に携わっております。精一杯頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。



小児科 レジデント 古城圭馴美
こじょう かなみ

平成22年10月より勤務させて頂いております小児科の古城です。小児科医になって半年です。皆様にご迷惑をかけながら、日々勉強させて頂いております。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。



麻酔科 レジデント 石川 知沙
いしかわ ちさ

平成22年11月より勤務させて頂いております、麻酔科の石川です。緊急手術の多い病院で、麻酔科として少しでもお役に立てましたら幸いです。システム等、まだ不慣れなことも多く、ご迷惑をおかけすることがあると思いますが、ご指導・ご鞭撻よろしくお願い致します。

『患者サロンの紹介』

頭頸部がんの手術治療で、喉頭摘出による永久気管孔造設患者さんの会「鶴鈴会」の食道発声の練習が、月1回、当院の研修棟でも行われており、当院で手術を受けた患者さんも参加している。また、手術前の患者さんも情報を得るために見学を希望される方もいる。当該病棟（西3階病棟）としては、癌患者さんの治療後の支援体制が確立されていない現状があったので、入院していた病棟であれば、気軽に参加しやすいのではないかと考え、音楽による心地よい空間の中で、患者・家族の経験に基づく共感的援助を提供できる場となるよう患者サロンを立ち上げ、がん患者およびその家族が心の悩みや体験などを語り合うための場として患者サロンを本年7月より毎月第2土曜日に13:30から開催している。

ピアノやフルートの演奏者や声楽家に来てもらい、音楽を聞いたり、一緒に楽しんで頂き癒しの時間を持ってもらったり、音楽をバックに聞きながら、喉頭摘出患者のみならず、癌の告知、説明を受けた、あるいは、治療前の患者さん、ご家族がお互い

の情報交換の場として参加いただいている。

その中で、「自宅療養中、同じような体験をした人の意見を聞きたいと思ったことがあります。こんな場があったら参加したい。」「それぞれ表面には出さないが、いろいろな悩みや思いがあると思いますよ。」などの感想が聞けた。

緩和ケアチームスタッフが病棟スタッフとともに話し合いをサポートするように介入しており、今後、軌道に乗れば病院全体に広げていく予定である。

(文責 耳鼻咽喉科 松崎 勉)



循環器市民講座を開催します。

日本人の死因の原因の多くはがん、動脈硬化(脳卒中、心臓・血管病)、感染症に大別できますが、血管病と関係する国民が増え、その関心も極めて高くなっている実情はメディアなどを通じ我々も実感していることです。とくに冠動脈疾患は脳血管疾患同様、個人の生活や行動、予後に大きな影響を与えるため、血管病に対する国民の関心が高くなるのは当然です。しかし、動脈硬化とは自分ほどのように関係し、なぜ血圧を下げたり、血清脂質を下げたりしなければならないのかなどを理解している人は極めて少ないと思われまます。

一方、来年3月には福岡市と鹿児島市の間に新幹線時も開通し、九州における人の流れも大きく変わろうとしています。鹿児島島の医療も少なからず影響を受けることが予想されます。そのような時代を迎えるに当たって、これまで長年に亘り地域の循環器医療を担ってきた当院ですが、これからもこの役割が続いてゆくために、ここで当院の経験を市民に還元し、心臓病・血管病への理解をより深めていただくためには極めて重要なことと考えます。

今回のテーマは「心臓を守ろう:心臓病の予防と治療の最前線」ですが、内容としては「市民のための健康フェ

スタ」と「講演会」の2つの部門からなり、ほぼ同時進行の形で行われます。健康フェスタでは主として看護師、技師、薬剤師による健康相談、検査・治療法の紹介(パネル)、血圧測定、減塩食の実際、救急蘇生の実際、自宅血圧計のチェックなどを行います。また、講演会では医師、看護師による特別講演:「老化を考える」(中村一彦前院長)を始め、当院スタッフによる講演とシンポジウムとして、「狭心症・心筋梗塞について」(園田正浩医師)、「心臓カテーテル治療について」(中島均医師)、「外科治療」(四元剛一医師)についての話の後、「心臓病予防の最前線として心臓のリハビリテーション」(鶴川俊一医師)、また、看護師の立場から「心臓・血管病からあなたを守る生活習慣改善法について」(中村由美子看護師)、を話していただくことになっています。その後、市民の生の声を聞く質疑応答の時間を設けました。脳卒中に関する公開講座はすでに行われておりますが、心臓・血管につきましても、今回が初めての経験ですので、職員の皆さまのご協力をいただき、是非成功させたいと願っております。何卒、よろしくお申し込み申し上げます。

(文責:皆越)

1月看護研修のご案内

主催 鹿児島医療センター看護部教育委員会

がんエキスパートナース研修 「緩和ケア総論」「トータルペインのアセスメントと看護介入」

- 日 時: H23年1月19日(水) 14時~16時
- 場 所: 研修棟 3階
- 講 師: 緩和ケア認定看護師 西 里佳
- 対象者: 医療関係者
- がん性疼痛看護認定看護師 水流 尚子

脳卒中エキスパートナース研修 「脳卒中の超急性期看護」

- 日 時: H23年1月25日(火) 14時~16時
- 場 所: 研修棟 3階
- 講 師: 救急看護認定看護師 伊藤 由加
- 対象者: 医療関係者

エキスパート共通コース 「看護倫理」

- 日 時: H23年1月31日(月) 14時~16時
- 場 所: 研修棟 3階
- 講 師: 副看護部長 倉本 昭子
- 対象者: 医療関係者

参加ご希望の方は準備の都合上、各コース3日前までに企画課(松尾)までご連絡下さい。院外の方のご参加をお待ちしています。

電話 099-223-1151 (内線 7303) FAX 099-226-9246

編集後記

1年たつのも早いもので、もう2010年が過ぎようとしています。皆さまにとっては良い年でありましたでしょうか。残り少ないですが良い年でありますことを願っております。

(担当:井上)

■お問い合わせ先 独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター** (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号 代TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246

http://www.kagomc.jp

脳卒中ホットライン ▶ 090(3327)5765

【地域医療連携室】 濱田・今泉・井上・西・森・中島・吉留・木ノ脇・水元・酒井
 直通電話▶099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476
 ※休日・時間外は当直者で対応します。

